

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年3月27日作成)

小委員会名	環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン 小委員会		主査名：岩田 三千子 就任年月：2022年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：大岡 龍三 主査名：中島 裕輔
設置期間	2022年4月 ～ 2025年3月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的) 高齢者や障がい者も活躍できる社会づくりのためには、バリアフリーやユニバーサルデザインの理念が大変重要であり、設計・計画分野のみならず、光、音、温熱、空気環境などの建築環境工学的なバリアフリー・ユニバーサルデザインの視点が重要である。</p> <p>委員会では、環境工学分野のバリアフリー・ユニバーサルデザインを専門としている研究者が集まり、情報を共有し、今後の日本や国内外の環境に関するバリアフリー・ユニバーサル環境をよりよいものにしていくために研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について検討していくことを目的とする。</p> <p>(活動計画) 見学会などに参加して、設計事例の収集に努めるとともに、QOL や法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。さらに、委員の持つそれぞれの分野の研究成果について、委員会を各年度4回程度開催して情報交換を行う。</p> <p>初年度：今後の研究活動についての目標設定を明確にしなが、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、委員会や研究会・見学会を企画して継続的に情報交換を行い、知見を広める。</p> <p>2年度：大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。</p> <p>3年度：他分野や建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザイン関連研究者とも連携し、公開の研究会を企画する。また、環境要素の相互関係に着目した環境工学研究の推進を図りながら、さらなる研究課題の抽出に努める。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：岩田 三千子 (摂南大学) 幹事：土川 忠浩 (兵庫県立大学) 西尾 幸一郎 (山口大学) 委員：安部 信行 (八戸工業大学) 柴田 祥江 (京都府立大学) 田中 直人 (島根大学) 宮本 雅子 (滋賀県立大学) 土田 義郎 (金沢工業大学) 伊藤 大輔 (日本工業大学) 岡田 仁 (ベネッセコーポレーション) 二井 るり子 (プラネットワーク)</p>		
設置WG (WG名：目的)			
2023年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項目	自己評価
委員会開催数	3回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	

講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会等	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. 対面1回、オンライン2回で委員会を開催した。さらに、大会オーガナイズドセッションを企画運営した。</p> <p>2. 建築学会大会オーガナイズドセッション (OS) について 【実施概要】 日時：2023年9月13日(水) 9:00-10:36 場所：京都大学吉田キャンパス 吉田南総合館西棟共西42室 セッション名：『高齢者、障害者、子どもなどを支える基礎研究と実践例』 ＜主旨＞21世紀の成熟社会を真に豊かにするため、高齢者、障害者、子どもなど、誰もが地域・社会の一員として、安心して暮らし、持てる力を十分に発揮して元気に活躍できるユニバーサル社会の実現が求められる。本小委員会メンバーにより、過去にも同様のテーマで技術設計競技、研究懇談会、OSなどを企画して、多様な人間についての研究成果やデザインの取り組みについて情報共有したが、このOSでは、その後の研究やデザイン事例について情報交換し議論を深めた。 発表題数：5題 司会：岩田三千子(小委員会主査)・西尾幸一郎(小委員会幹事) 講評：本セッションでは、光・音・熱などの建築環境工学の研究者、建築計画学の研究者および設計者などが集まって、高齢者、車いす使用者、視覚障害者、一側性難聴者、子どもなど多様な人を対象とした研究内容について、活発な質疑応答が行われた。</p> <p>3. オンライン委員会では、委員からの情報提供を受け、意見交換を行った。 1) 「福祉施設的环境設計—障害者施設を中心に—」と題し、これまで多くの福祉施設を設計している委員が自らの設計事例について、入居者(特に知的障害者)の環境に対する心身の特性と施設設備の配慮との関係を中心に解説した。それに関し、委員間で意見交換を行った。 2) 「視覚障害者の安全で安心な住環境設計・整備に関する一提案」と題し、委員から視覚障害者を対象の住宅の設計プロセスの研究解説があり、環境工学的視点、および計画学的な視点等から多くの意見がだされ、相互に有意義な意見を交換した。</p>
委員会活動の問題点 ・課題	<p>1. 近年、大学関係の委員が特に多忙で委員会開催の日程調整が困難であり、夕方以降のオンライン開催を余儀なくされた。</p>

*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>今年度は小委員会の活動計画としていた、建築学会大会でのオーガナイズドセッションの企画・運営を中心に行った。セッションのテーマは『高齢者、障害者、子どもなどを支える基礎研究と実践例』で研究者や実務者からの発表があり、活発な質疑応答が有、有意義なセッションとなった。</p> <p>これについて、第2回小委員会、大会OS会場での委員および出席者からの質問や意見について内容の確認を行った。</p> <p>第1回、第3回小委員会では、委員が行っている研究活動についての情報提供を中心に行い、それに対する質疑応答ならびに活発な意見交換がなされた。</p> <p>具体的には、第1回は障害者施設を設計している委員により実際に設計・建設された複数の施設について、環境工学的視点からの特徴を含めた解説があり、建築計画、環境設計に対する環境工学研究の実際的な効果や課題の顕在化に有用であったと考えられる。</p> <p>第3回は、主に視覚障害者を対象とした研究を行っている委員より、視覚障害者の安心・安全な住宅に対するニーズ調査や課題の解説、および新たな住宅設計プロセスの提案があった。</p> <p>今後も本小委員会では、様々な、建築計画、環境設計に対する環境工学的な視点からの議論を行って、今後の活動や各委員の研究の方向性の進展につなげたい。</p>

●総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度

C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）

設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）

設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」

設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」